



Fig. 34 アヴァチャ山に生育するタカネスミレ (*Viola crassa* Makino)  
大雪山で見かけるような大きな株にはほとんどならず、まばらに生育しているようだった。



Fig. 35 スグロマーモット (*Marmota kamtschatica*)  
日本ではあまり馴染みのない哺乳類だが、北半球に広く分布するマーモット属の動物の1種。カムチャツカマーモットとも呼ばれているらしい。

は進むことはできないだろう（日本車の名誉のために、この雪渓を他の旅行者のランクルやデリカなどがちゃんと越えていた事も付記しておく）。埋まりかけては這い出て、セルゲイさんの腕の見せ所だ。しばらくは、雪と格闘しながら何とかベースキャンプにたどり着いた。

ベースキャンプにはコンテナのような小屋、食堂があるロッジ、トイレ、簡単なビジターセンター、テント泊できるスペースなどもあり、観光地化されている。早速可愛らしく人慣れしすぎたホッキョクジリス (*Spermophilus parryii*; Fig. 33) に会う。ジリスは名のとおりリス科の動物ではあるが、ニホンリスやエゾリスなどといったリス属とは別系統の地上性の哺乳類であり、北日本にも生育するシマリスに近いグループだそう。小さなビジターセンターに立ち寄り、通称ラクダ山（標高 1230 m 付近）を目指す。

ラクダ山までの道のりで待っていましたとタカネスミレ（広義）に出会う（一部の記録にはここに自生しているものはタカネスミレ（広義）とは別種とするものもあった。それはドイツのスミレ研究家ベッカー（W. Becker）とスウェーデンの植物分類学者フルテン（Hultén）によって 1928 年に記載された *Viola avatschensis* とする見解だが、詳細は不明である）。ここのタカネスミレ（広義）は、葉は有毛で厚く、光沢は無いが深い緑色をしている。日本ではタカネスミレは 4 つの亜種に区別されているが、アヴァチャ山周辺のものはそのどれも僅かに違う印象を受けた（ただ別種かどうかはわからない）。

その他、ラクダ山一帯には非常にたくさんの高山植物が開花していたものに関して、別途リストに記載する事にした。ラクダ山周辺の紹介はホームページやブログなどで他にもたくさんあるのでリストは参考程度にして頂けたら幸いである。ラクダ山へは東側から登るルートを進んだ。ラクダ山の麓から続くお花畑を通り過ぎた後、非常に大量のアブラムシが雪上に吹き溜まっている雪渓をザクザクと登る。空にはワタリガラスが飛んでおり、とても良い天気だった。ラクダ山に登ると、残雪にまみれたアヴァチャ山、コリャーク山、南にはアバチャ湾の向こうにヴィリュチンスカヤ山が美しく見えた。お花畑でいろいろと観察しているとタヌキぐらいの大きさの動物が現れた。スグロマーモット (*Marmota kamtschatica* もしくは *camtschatica*; Fig. 35) という哺乳類のようだ。こちらも人慣れしているのかあまり警戒する様子もなく日向ぼっこしていた。ラクダ山の西側から下るとお花畑の中に一際変わった植物が目にとまった。いわゆるセーター植物のような姿であるワタシオガマ（別名アイザワシオガマ; *Pedicularis lanata* Willd



Fig. 36 ワタシオガマ (*Pedicularis lanata* Willd ex Cham. et Schlecht.)



Fig. 37 アイヌタチツボスミレ (*Viola sacchalinensis* Boissieu.)

*thunbergii* A. Gray) などのお花畑となっている。開花期ではなかったがまだ葉が巻かれている状態のアツモリソウ属植物を観察する事ができた。花を見てみたかったが、それは今後の楽しみとしたい。西側の斜面にはハイマツやフルティコーサハンノキからなる灌木帯があり、分け入ってみると久しぶりのアイヌタチツボスミレ (*V. sacchalinensis* Boissieu) が開花していた。やや小型であるが蕾の個体も多く、これから少し生長するのかもしれない。それにしても期待していたタカネタチツボスミレに出会う事ができなかった。オリガさんにもありそうな場所をお聞きしたのだが、この付近では見かけたことが無いとの事だった。その後、残りのカムチャツカ滞在でありそうな場所に立ち寄るとこまめに探し、うわごとのように何度も "*Viola langsdorfii*" をつぶやいた。残念ながらこの滞在中に観察する事はついにできなかった。

調査が終わり我々の小屋まで歩いていると何度かアカギツネ (*Vulpes vulpes*) を見かけた。故郷の北海道でよく出会うキタキツネ (*V. v. schrencki*) は、このアカギツネの亜種にあたるそうだが(全くの蛇足だが、アカギツネの学名を調べたときに少し違和感があった。植物では属名と種小名が同じであることが国際命名規約で禁止されているためこのような繰り返しが見慣れないからだ。キタキツネの学名が亜種名を含めて *Vulpes vulpes schrencki* と表記されていたので、最初間違っってコピペしたのかと思ってしまった・・・もちろん動物の命名規約では許されている)。“キツネが何か啜えている” 藤原さんが双眼鏡をのぞきながらつぶやく。啜えられていたのは丸々太ったかわいいホッキョクジリスのようだった。人間に懐き、結果として丸々太った事が、彼もしくは彼女の運命を変えていなければいいのだが・・・。



Fig. 38 ベースキャンプより夕日に染まったアバチャ湾(南側)を望む  
左にうっすらとヴィリユチンスカヤが見える。天気恵まれ空気も澄んでいた。





Fig. 39 オオバナノエンレイソウ (*Trillium camschatcense* Ker-Gawl.)



Fig. 40 ミヤマスマレ (*Viola selkirkii* Pursh ex Goldie)  
群生せずに小さな株ごとに点々を生育していた。

そんなこんなで一日が過ぎていった。夕日が西の山の方へ落ちていく様とベースキャンプから一望できるアバチャ湾をしばし眺めていた。こんなにのんびり夕日を眺めたのはいつ以来だろうか。辺りが暗くなるにつれて星空が素晴らしくなってくる。夕食後、寒かったのだが午前0時過ぎまで星空を眺めていた。ベースキャンプでは発電機の燃料節約のため0時に電源が落とされる。・・・バチン。辺り一面の暗闇と素晴らしき星空。

カムチャツカ調査の終盤、オオバナノエンレイソウ (*Trillium camschatcense* Ker-Gawl.) に関する調査を行うため、ペトロパブロフスク - カムチャツキー南西にあるパラトゥンカ (Паратунка) より少し南へ行ったカルイムシナ川上流を調査した。詳しくは割愛するが、雪融け間もない場所で開花したミヤマスマレ、温泉湧き出る川原で結実していた小さなアイヌタチツボスマレを観察できた。また、ちょうどオオバナノエンレイソウは開花期を迎えていた。カムチャツカでは北海道の低地林でよく見られるような高密度では生育せず、数個体のまとまりがぼつん、ぼつんと生育している。ペトロパブロフスク - カムチャツキーへの帰路でオリガさんがカムチャツカに自生しているスマレ属植物について新たな情報を教えてくださった。なんとチシマウスバスミレ (*Viola hulthenii* W. Beck.) が市内のメドヴェジエ湖に生育しているとのことだった。翌日は予備日の為、時間的に観察する余裕がある。既にメドヴェジエ湖は何度も訪れていたもので、どこに生育しているのかは大体予測がついた。チシマウスバスミレは自身にとって思い出深いスマレ属植物の1つだ。大学生のころ住んでいた帯広市で初めてこのスマレ属植物に出会った。スマレ属植物に興味を持ち始めて間もなかったのが最初はなかなか探せずに、“白い花をつける”という共通点しかないツボスマレと何度も見間違えていた。探しまわって見つけたときには既に開花期を過ぎており、その翌年、1年越しにやっと開花している個体に出会えた事を今でもよく覚えている。静かに水が流れる林内の湿地でミズゴケの上にべたっと貼り付くように生えていた。それから十勝地方を中心に似たような場所を注意深く観察するようになってからは、いくつかの場所でこの種を観察した。近年、そのような生育地が減少しつつあるので非常に寂しく思う。これはチシマウスバスミレの生育地だけに限ったことではないのだが・・・。そういえばカムチャツカへ導いて下さった福田さんと調査で最初にご一緒させていただいた国後島のフルカマップ郊外の湿原でもこの種を観察した。小さくかわいらしく、何か惹かれるスマレ属植物の1つだ。

翌日、水辺で蚊に刺されるのを嫌がる藤原さん



Fig. 41 ペテロパブロフスクカムチャツキー市内に位置するメドヴェジエ湖  
湖面の奥の山はコリヤーク、アヴァチャ山。湖の奥（北側）に高層湿原 (Fig. 42) が広がる。

を無理やり誘ってメドヴェジエ湖 (Fig. 41) へ向かった。東側は宅地造成が進み、西側は少し荒れたような土地に囲まれている。とはいえ、おおよそ 6ha ぐらいの面積にいろいろな環境があり植物観察には非常に面白い場所である。開水面は南側の 2ha 程の広さだけだが、北側には高層湿原、それらを取り囲むフルティコーサハンノキ、シラカバ、ヤナギ類などの林、僅かだが草地などの環境があり、蚊さえ気にならなければ丸 1 日は楽しめる (たぶんこのような場所はカムチャツカではごく普通に存在するのだと思う)。

高層湿原 (Fig. 42a) には、ヤナギ属植物 (*Salix fuscescens* Anderss.; 北海道固有種ミヤマヤチヤナギのように葉に光沢があり、無毛で葉の裏が白い)、ヤチヤナギ (*Myrica tomentosa* (DC.) Aschers. et Graecn.)、ヒメカンバ、キンロバイなどの灌木が生え、サギスゲのようなシュムシュワタスゲ (*Eriophorum polystachion* L.)、ヒメワタスゲ (*Trichophorum alpinum* (L.) Pers.) が白い綿を出していた。ちょうどヒオウギアヤメ、ミツバオウレン (*Coptis trifolia* (L.) Salisb.)、キンロバイ、エゾノマルバシモツケ、エゾゴゼンタチバナ (*Chamaepericlymenum suecicum* (L.) Aschers. et Graebn.)、ヒメシャクナゲ (*Andromeda polifolia* L.; Fig. 42b)、ツマトリソウ (亜種) (*Trientalis europaea* L. subsp. *arctica* Hult.)、エゾノコギリソウ (*Ptarmica macrocephala* Kom. もしくは *Achillea ptarmica* L. subsp. *macrocephala* (Rupr.) Heimerl; Fig. 42c) などが開花していた。湿地帯を少し分け入って灌木が疎になった所に丸い葉が敷き詰められていた。探していたチシマウスバスマミレだ (Fig. 42d)。もう開花期は過ぎていたが、開放花由来の果実がちょうど成熟していた。十勝で観察していたものよりもやや葉が厚い印象があったが葉縁や葉上にまばらに毛が生えていた。その他、高層湿原にはムジナスゲ? (*Carex lasiocarpa* Ehrh.)、イトナルコスゲ? (*Carex laxa* Wahlenb.)、コヌマスゲ? (*Carex rotundata* Wahlenb.)、ホソバノキソチドリ (*Platanthera tipuloides* (L. fil.) Lidl.)、ヒメスイバ (*Acetosella angiocarpa* (Murb.) A. Löve)、ナガバノモウセンゴケ (*Drosera anglica* Huds.)、ウラジロシモツケソウ (*Filipendula palmata* (Pall.) Maxim.)、ナガボノシロワレモコウ (*Sanguisorba*



Fig. 42 メドヴェジエ湖の高層湿原とそこに生育する植物達

a メドヴェジエ湖の高層湿原：宅地造成や道路の拡大によっておそらく乾燥化が進行している, b ヒメシャクナゲ (*Andromeda polifolia* L.), c エゾノコギリソウ (*Ptarmica macrocephala* Kom.), d チシマウスバスマミレ (*Viola hultenii* W. Beck.)





Fig. 43 メドヴェージェ湖の高層湿原以外の植物達

a イトキンポウゲ (*Ranunculus reptans* L.), b チシマフウロ (*Geranium erianthum* DC.), c ウラジロタデ (*Aconogonon weyrichii* (Fr. Schmidt) Hara), d ハゴロモグサ属植物の一種 (*Alchemilla* sp.): 日本では同属のハゴロモグサ (*Alchemilla japonica* Nakai et H.Hara) が生育している。

*tenuifolia* Fisch. ex Link) などが観察された。

その後、開水面がある沼地へ行くとハイキンポウゲ (*Ranunculus repens* L.)、イトキンポウゲ (*R. reptans* L.; Fig. 43a)、スカシタゴボウ (*Rorippa palustris* (L.) Bess.) が花を咲かせていた。その他、ヒルムシロの一種 (おそらくホソバヒルムシロ *Potamogeton tenuifolius* Rafin.)、ヤラメスゲ? (*Carex lyngbyei* Hornem. subsp. *cryptocarpa* (C. A. Mey.) Hult.)、オニナルコスゲ (*Carex vesicata* Meinsh.)、クロヌマハリイ? (*Eleocharis palustris* (L.) Roem. et Schult.)、ヤナギトラノオ (*Lysimachia thyrsoiflora* L.) などが観察された。またその他の環境 (草地や林内、林縁) では、ヤマヌカボ (*Agrostis clavata* Trin.)、バイケイソウ、オオバタケシマラン (*Streptopus amplexifolius* (L.) DC.)、オオバナノエンレイソウ、エゾイラクサ (*Urtica platyphylla* Wedd.)、チシマイチゴ、ヤマブキショウマ、ツルキジムシロ (*Potentilla stolonifera* Lehm. ex Ledeb.)、チシマフウロ (Fig. 43b)、エゾノシシウド、ヒメウイキョウ (*Carum cavil* L.)、オオハナウドなどが開花し、クルマユリ (*Lilium debile* Kittlitz)、ウズラバハクサンチドリ、ウラジロタデ (*Aconogonon weyrichii* (Fr. Schmidt) Hara; Fig. 43c)、ムカゴトラノオ、シコタンキンポウゲ (*Ranunculus subcorymbosus* Kom.)、アキカラマツの基本種 (*Thalictrum minus* L.)、ハゴロモグサ属植物の一種 (*Alchemilla* sp.; Fig. 43d)、カラフトイバラ (*Rosa amblyotis* C. A. Mey.)、タニマスミレ、アイヌタチツボスミレ、シャク (*Anthriscus sylvestris* (L.) Hoffm.)、エゾオオヨモギ (*Artemisia opulenta* Pamp.)、ヨブスマソウなどの基本種 (*Cacalia hastata* L.)、ハンゴンソウ (*Senecio cannabifolius* Less.) などが観察された。草地というか荒地? では、タチオランダゲンゲ (*Trifolium hybridum* L.)、オオバコ (*Plantago asiatica* L.)、セイヨウノコギリソウ (*Achillea millefolium* L.)、セイヨウタンポポ (*Taraxacum officinale* Wigg.)、フキタンポポ (*Tussilago farfara* L.)、などといった定番の外来種も生育していた。このメドヴェージェ湖周辺は今後も我々の定番の観察スポットになりそうだ。・・・迫りくる開発にどうか耐え抜いてほしいと願うばかりである。

メドヴェージェ湖での植物観察で今回のカムチャツカでのフィールドはすべて終了した。オリガさんやセルゲイさん、福田さん、同行して下さった石川先生、藤原さんのお陰で、目的の作業もほぼ終えることができた。改めて心から謝意を表したい。日本に帰国してからしばらくしてオリガさんよりメールを頂いた。メールには、探し求めていたタカネタチツボスミレの画像 (Fig. 44) が添付されていた。北海道の知床で撮影されたタカネタチツボスミレの画像を見かけることがあるが、それらとよく特徴が似ている。タカネタチツボスミレとオオバタチツボスミレとの関係については未だ決着がついていないようだが、私は形態のみならず生態も少し異なるように感じている。日本のスミレで著者のいがりまさしさんが記しているように今後の面白いテーマではないかと思う。北の大地“カムチャツカ”、千島列島、そして日本。植物達はどのような旅をしてきたのだろうか。そしてその過程で何を獲得し、今に至るのだろうか。・・・私を魅了してやまないカムチャツカへの思いは更に募っていく。



Fig. 44 オリガさんから送られてきたタカネタチツボスミレ (*Viola langsdorfii* Fisch. ex Ging.) と思われる写真  
知床でタカネタチツボスミレとされるものに良く似ている。上の写真から特徴の1つとされる萼片の付属体が不明瞭であることがわかる。 ※写真は Chernyagina Olga 博士によって撮影されたもの

## リスト1 コジレフスキー標高 700 m付近で開花していた植物 2015年7月13日

ミヤマイ (*Juncus beringensis* Buchenau)、バイケイソウ (*Veratrum oxysepalum* Turcz.)、チシマアマナ (*Lloydia serotina* (L.) Reichenb.)、オンタデ属植物 (*Aconogonon tripterocarpum* (A. Gray) Hara; Fig. 45a)、ジンヨウスイバ (*Oxyria digyna* (L.) Hill)、シコタンハコベ (*Stellaria ruscifolia* Pall. ex Schlecht.; Fig. 45b)、ハクサンイチゲの別亜種 (*Anemone narcissiflora* L. subsp. *sibirica* (L.) Hult. ?)、エゾミヤマハンショウヅル (*Atragene ochotensis* Pall.)、キケマン属植物の1種 (*Corydalis arctica* M. Pop.)、小型のタネツケバナ属植物 (*Cardamine microphylla* Adams.; Fig. 45c)、イワベンケイ (*Rhodiola rosea* L.; Fig. 45d)、エゾネコノメソウ (*Chrysosplenium alternifolium* L. subsp. *sibiricum* (Ser. ex DC.) Hult.)、(*Saxifraga nelsoniana* D. Don もしくは *Micranthes nelsoniana* (D. Don) Small)、トカチスグリ (*Ribes triste* Pall.; Fig. 45e)、チシマイチゴ (*Rubus arcticus* L.)、チングルマ (*Sieversia pentapetala* (L.) Greene)、タカネナナカマド (*Sorbus sambucifolia* (Cham. et Schlecht.) M. Roem.)、エゾノマルバシモツケ (*Spiraea beauverdiana* Schneid.)、カラフトゲンゲ (*Hedysarum hedysaroides* (L.) Schinz. et Thell.)、ヒメイツツジ (*Ledum palustre* L. subsp. *decumbens* (Ait.) Hult.)、エゾノツガザクラ (*Phyllodoce caerulea* (L.) Bab.)、エゾコザクラ (*Primula cuneifolia* Ledeb.; Fig. 45g)、ヨコヤマリンドウ (*Gentiana glauca* Pall.)、ハナシノブ属植物の一種 (*Polemonium* sp.)、ハマベンケイソウ属植物 (*Mertensia pubescens* (Roem. et Schult.) DC.; Fig. 45h)、白い花を咲かせるタマザキシオガマ (*Pedicularis capitata* Adams)、*Pedicularis* 属植物の一種 (たぶんタカネシオガマ: *Pedicularis verticillata* L.)、シュムシクワガタ (*Veronica grandiflora* Dicks.) キオン属植物の1種 (*Senecio frigidus* (Richards.) Less.)





Fig. 45 コジレフスキー標高 700 m 付近で開花していた植物達

a オンタデ属植物 (*Aconogonon tripterocarpum* (A. Gray) Hara), b シコタンハコベ (*Stellaria ruscifolia* Pall. ex Schlecht.), c タネツケバナ属植物 (*Cardamine microphylla* Adams.), d イワベンケイ (*Rhodiola rosea* L.), e トカチスグリ (*Ribes triste* Pall.), f チングルマ (*Sieversia pentapetala* (L.) Greene), g エゾコザクラ (*Primula cuneifolia* Ledeb.), h ハマベンケイソウ属植物 (*Mertensia pubescens* (Roem. et Schult.) DC.)



リスト2 ラクダ山周辺で開花していた植物 2015年7月16日

チシマアマナ (*Lloydia serotina* (L.) Reichenb.)、ウズラバハクサンチドリ (*Dactylorhiza aristata* (Fish. ex Lindl.) Soo)、チシマヤナギ (*Salix arctica* Pall.)、ヤナギ属植物 (*Salix reptans* Rupr.)、ミネヤナギに似る (*Salix tschuktschorum* A. Skvorts.)、フルティコーサハンノキ (*Alnus fruticosa* Pall.; Fig. 46a)、ミヤマツメクサの基本種 (*Minuartia macrocarpa* (Pursh) Ostenf.)、ハコベ属植物の一種 (*Stellaria eschscholtziana* Fenzl; Fig. 46b)、ハクサンイチゲの別亜種 (*Anemone narcissiflora* L. subsp. *sibirica* (L.) Hult. ?)、ヒナゲシ属植物の一種 (*Papaver microcarpum* DC.; Fig. 46c)、ミヤマハタザオ (*Cardaminopsis Iyrata* (L.) Hiit.)、イヌナズナ属植物 (*Draba lonchocarpa* Rydb. )、アブラナ科植物 (*Ermania parryoides* (Cham.) Botsch.; Fig. 46d)、グンジソウ (*Parrya nudicaulis* (L.) Regel)、チャボシコタンソウ (*Saxifraga cherlerioides* D. Don)、(*Saxifraga merkii* Fisch. ex Sternb. もしくは *Micranthes merkii* (Fisch. ex Sternb.) Elven et D.F.Murray)、ユキノシタ属植物の一種 (*Saxifraga purpurascens* Kom.; Fig. 46e)、チョウノスケソウ (*Dryas punctata* Juz.)、ウラジロキンバイに似ているが葉の切れ込みが深く揃っていない (*Potentilla vulcanicola* Juz.; Fig. 46f)、ワレモコウ (*Sanguisorba officinalis* L.)、オヤマノエンドウ属植物の数種 (*Oxytropis kamtschatica* Hult.、*O. pumilio* (Pall.) Ledeb. など)、タカネスミレ (*Viola crassa* Makino) アイヌタチツボスミレ (*V. sachalinensis* Boissieu)、イワヒゲ (*Cassiope lycopodioides* (Pall.) D. Don)、ウラシマツツジ (*Arctous alpina* (L.) Niedenzu; Fig. 46g)、エゾノツガザクラ (*Phyllodoce caerulea* (L.) Bab.; Fig. 46h)、コケモモ (*Vaccinium vitis-idaea* L.)、ヒメクロマメノキに似るスノキ属植物 (*V. vulcanorum* Kom.)、イワウメ (*Diapensia obovata* (Fr. Schmidt) Nakai)、トチナイソウ (*Androsace lehmanniana* Spreng.; Fig. 46i)、エゾコザクラ (*Primula cuneifolia* Ledeb.)、トウヤクリンドウ (*Gentiana algida* Pall.)、ミヤマムラサキ属植物 (*Eritrichium kamtschaticum* Kom.; Fig. 46j)、ウルップソウ (*Lagotis glauca* Gaertn.; 46k)、ワタシオガマ (*Pedicularis lanata* Willd ex Cham. et Schlecht.)、シュムシュクワガタ (*Veronica grandiflora* Dicks.)、エゾノハハコヨモギ (*Artemisia furcata* Bieb.)、ハハコヨモギ (*Artemisia glomerata* Ledeb.; Fig. 46l)、タンポポ属植物の1種、その他複数のイネ科植物、カヤツリグサ植物







Fig. 46 ラクダ山周辺で開花していた植物達

a フルティコーサハンノキ (*Alnus fruticosa* Pall.), b シハコベ属植物の一種 (*Stellaria eschscholtziana* Fenzl), c ヒナゲシ属植物の一種 (*Papaver microcarpum* DC.), d アブラナ科植物 (*Ermania parryoides* (Cham.) Botsch.), e ユキノシタ属植物の一種 (*Saxifraga purpurascens* Kom.), f *Potentilla vulcanicola* Juz., g ウラシマツツジ (*Arctous alpina* (L.) Niedenzu), h エゾノツガザクラ (*Phyllodoce caerulea* (L.) Bab.), i トチナイソウ (*Androsace lehmanniana* Spreng.), j ミヤマムラサキ属植物 (*Eritrichium kamtschaticum* Kom.), k ウルップソウ (*Lagotis glauca* Gaertn.), l ハハコヨモギ (*Artemisia glomerata* Ledeb.)